

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒畑 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

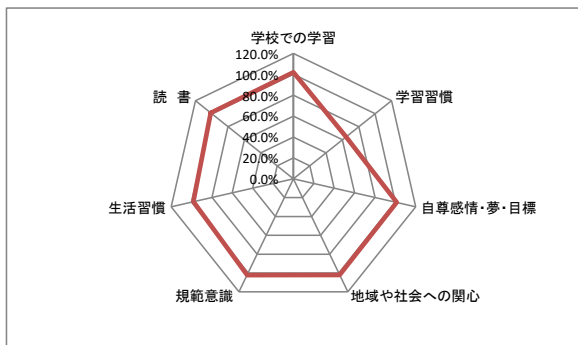
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや下回っている。書くことや伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて質問を工夫したり、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたりすることができる。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があり、漢字を繰り返し練習する必要がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率を下回っている。特に、「数と計算」「量と測定」「数量関係」に関する問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題ができています。	
	努力が必要な問題	加法と乗法の混合した整数と少数の計算をする問題や棒グラフから読み取って書く問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	家庭学習を1時間以上行っている児童の割合が全国平均より下回っている。「家庭チャレンジハンドブック」「黒畑スタンダード～家庭学習編～」等を活用して、家庭学習の定着を図る必要がある。
○	「携帯スマホ電源10時OFF」や「規範意識育成事業」等の取組により、規則正しい生活習慣が身に付いてきた。
○	地域の行事に参加する児童が増えた。
○	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が大幅に増加した。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 黒畑タイム・授業開始5分を利用して、小テスト等を行い、新出漢字や既習の漢字の定着を図る。
- 「学力サポートシステム」を活用し、「数と計算」「量と測定」「数量関係」に関する知識・技能の定着を図る。
- 毎時間、各教科で話し合い活動を行い、思考力・判断力・表現力を育成する授業を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭チャレンジハンドブック」や「黒畑スタンダード～家庭学習編～」で紹介された学習の意義や学習方法の児童への指導を徹底し、保護者には学級懇談会や個人懇談会で紹介する。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に、基本的な生活習慣の見直しを図る。